国臨協関信

HPアドレス　http:// kanshinshibu.org

平成26年４月
事務局　〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部内
発行者　浅里　功
編集委員　金子　司・小池容子・平原　学
印刷所　東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

国臨協関信支部定期総会・関信支部主催研修会・合同交流会の日程

第42回国臨協関信支部定期総会・関信支部主催研修会

日時：平成26年４月19日（土）12:30～15:30
場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）　６階　霧島

12:30　受付開始
13:00～14:00　第42回国臨協関信支部 定期総会
14:00～14:15　休　憩
14:15～15:30　特別講演『新年度の始まりと今後へのメッセージ』
NHO関東信越ブロック事務所統括部医療課
臨床検査専門職　上　條　敏　夫　先生

平成25年度退職会員を囲む合同交流会

日時：平成26年４月19日（土）16:00～18:00
会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）　３階　富士

15:30　受付開始
16:00～18:00　退職会員を囲む合同交流会

国臨協関信支部定期総会開催にあたり（お願い）

出席予定の会員の方へ・総会議案書を必ずご持参下さい。
欠席される会員の方へ・「代理人への表決権の委任・書面による表決」は出席する貴施設の代表者にお預け下さい。
施設連絡責任者の方へ・「代理人への表決権の委任・書面による表決」は貴施設で取りまとめ、代表者が当日、受付に提出して下さい。
・貴施設に出席会員がいない場合は、取りまとめ下記まで郵送(施設負担)願います。
※4月14日必着
〒162－8655　東京都新宿区戸山1-21-1　独立行政法人　国立国際医療研究センター病院　中央検査部内　国臨協関信支部事務局　宛

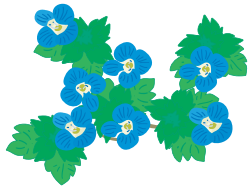
退職によせて

国立国際医療研究センター病院
宮　崎　澄　夫

夜行列車に乗り込み長崎から東京へ、修学旅行と就活以来である。21年間暮らした故郷の出来事が思い浮かび、気がつくと３度目の東京駅が間近に見えてくる、本日より大都会で暮らすことになるかと思うと不安と期待でいっぱいでした。しかし東京で暮らす人のほとんどが地方出身者と知ったのは半年くらいしてからであり地方から就職してくる者としては、東京の最初の印象は人の多さと言葉がきれいと言うことでした。

高校卒業とともに検査技師を目指し、民間病院を経て国立病院に勤務いたしました。国立病院に勤務して驚くのが職員の年齢層が高いのと毎年の転勤による職員の入れ替わりの速さでした。また国立病院検査技師の団体である国臨協（当時は厚臨協：厚生省臨床検査技師協会）会員の組織力の強さに圧倒されました。支部学会、症例検討会やビアパーティー等の勉強会や懇親会は多くの技師との語らいの場であり、支部学会では採用後から６回の発表の機会もいただき人前でのスピーチ経験が浅かった私にとっては大きな挑戦であり、その後の人生に大いにプラスとなった経験でした。それから私にとって前半20年は立川病院で勤務し、残り20年は平均２年のペースで10施設をまわり、のべ二百人以上の職員と苦楽をともにしてきました。その中で特に国臨協本部役員時代には本部、全国の支部役員との会議や講演等で国立医療・検査部門の発展を願い議論してきました。国立病院は完全民営化に向かい変化していくように聞いております。定年制、給与や年金等で多くの問題を抱えておりますが、その時代の状況により多くの苦難が伴います。しかし希望を持ち続け明日を信じて業務に専念すれば、きっと良いこともあります。

最後に在任期間の38年間は多くの方々にご指導やご支援をいただき無事に定年を迎えることに感謝し、今後新たに進むべき道を考えて行く所存です。また関信支部活動の発展と会員の皆様のご健勝を祈り、関信支部が全国の臨床検査技師会の見本となりますよう期待しております。



国立がん研究センター中央病院
澁　谷　千　春

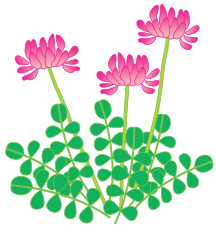
会員の皆様にはお健やかな毎日をお過ごしのことと思います。今年度で退職を迎えるにあたり、皆様にお別れのご挨拶を申し上げます。1975年現国立国際医療研究センター病院に入職以来臨床検査技師として医療に携り、今日を迎える事ができましたのは、基礎を築き、臨床検査発展に尽力され、仕事の厳しさ、社会人としての責務などご指導いただいた諸先輩方のお陰と感じております。時にはライバル、時には家族のように支えあった同僚の皆様、多くを学ばせていただいた後輩の皆様、関係各位の皆様に厚くお礼申し上げ深く感謝いたします。

この間臨床検査は、用手法の時代から機械化へ変動を遂げ、システム化、オーダリング化へと進化し、24時間365日臨床検査が必要とされる重要な職種となりました。また女性技師としては、「男女雇用均等法」の施行により昇任、昇格の機会は以前より恵まれることとなりましたが、それまで少なかった女性の転勤が、一般的になり考え方が一変しました。私もこれまで３施設で勤務させていただいております。転勤、配置換えは職場の環境が変わる事により、考え方や仕事の取り組み方に影響し、新たな進歩につながると確信し、私は「風が吹く」と表現しておりました。

臨床検査技師人生で最も危機感を感じたのは保険制度の見直しにより、検査室の外注やブランチ化などが取りざたされ、院内検査室の存在が危ぶまれた時期でした。しかし、現在では臨床に対する細やかなサービス・看護部門への支援・患者サービス・精度管理の向上・検査の多様化への順応により臨床検査の存在感が増してきていると思います。

臨床検査の将来はさらに高度な技術を要求され、信頼と正確さが求められていくと感じています。各分野での認定技師の取得は重要視され、未来の原動力として期待されるのではないでしょうか。

最後に皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りして、私は国臨協関信地区を卒業させていただきます。



ＮＨＯ相模原病院
河　本　健　二

昨年末、支部より"退職によせて"の原稿依頼をいただき改めて定年退職という実感が湧いてきました。

昭和56年横浜病院から公務員生活をスタートさせ33年・５施設（横浜・相模原・神奈川・成育・千葉東）でお世話になり、最後は地元相模原病院で退官できることは大変うれしく、その間多くの先輩・同僚に助けて頂いたことに対しまして厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、それぞれの施設で思い出はありますが、18年間過ごした神奈川病院の印象が強く、Ｒ246を走り善波トンネルを抜けると突然富士山が現れ、高台にある病院に続く道は桜並木と、四季を感じる風景が印象的でした。また、医師と医療（二）全体で医務科会なる交流会があり病院全体に家族的雰囲気を感じる施設でした。その間には関信支部（Ｈ３・４）へ参加し良き先輩・同僚に恵まれ、第20回記念大会を行ったこと、分厚い抄録集を作るため何度も医療センターへ足を運び校正を繰り返したことを、そして学会終了後打ち上げで福島に旅行したことなどが懐かしく思いだされます。また成育医療センターへ出向した時は改めて検査の重要性を再認識させられた施設でした。特に脳神経外科手術の際、朝から夕方まで手術室にはいり執刀医から怒られながら術中機能モニタリングを行ったこと、ヘリで緊急搬送されてくる子供の脳波検査のため病院に泊まったことなど多々ありました。しかし患者のご両親からお礼の言葉をきくと疲れが吹っ飛び充実した気持ちで帰路に着いたことを覚えています。成育医療センターが技師生活の中、一番ハードで心に残る施設だったかもしれません。

国立から法人化に移行して10年、さらに新たな波が押し寄せ、ますます厳しい環境になることが予想されます。そのために若い技師のみなさんには常日頃からスキルアップをはかり患者さんから・職場から信頼される検査技師・病院から必要とされる検査技師（スペシャリスト）を目指しチャレンジすることを期待しています。

"やるのはいつ？今でしょう！"のエールを送って締めたいと思います。

最後に国臨協関信支部の益々の発展と会員の皆様のご活躍を祈念いたしまして定年の挨拶とさせていただきます。有難うございました。

ＮＨＯ東長野病院
服　部　利　郎

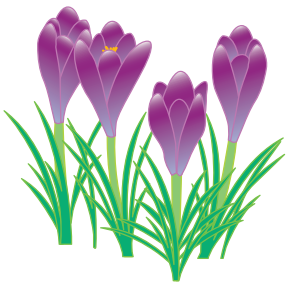
平成26年３月をもちまして定年退職となりますが、正直いってまだ実感がわきません。思い起こせば昭和49年４月に当時の国立王子病院で非常勤職員として採用され定員となりその後、村山療養所、小児病院、東長野療養所、成育医療センター、松本病院、まつもと医療センター中信松本病院、東長野病院と延べ８施設でお世話になりました。転勤先々では多くの方々と出会い、また検査技術を学ぶことができました。このことは私にとって貴重な財産となりました。

沢山ある思い出の中で特に印象深いのは２度の海外研修です。１度目は私が東京都臨床衛生検査技師会（都臨技）の理事であった頃の昭和61年に技師会が募集した「米国における臨床検査の質的管理対策の実態調査（エイズ等）及びカリフォルニア臨床検査技師会との交流・情報交換」に親善使節団として参加したことです。総勢20名の団員は滞在中に２ヵ所の病院（大、中規模）視察と技師会との懇親会に参加しました。海外の医療施設に興味があった私にとって良きチャンスをいただきました。２度目が平成２年に都臨技の英会話サークルが企画した豪州語学研修と病院視察でした。

総勢15名が参加し各自がホームステイをしながら語学スクールに通学するという企画でした。そして特別企画として１ヵ所の病院（大規模）視察がありました。２度共、すでに退官されました中村春木氏（当時、立川病院）とご一緒させて頂き大変心強かったです。

「検査説明・相談のできる臨床検査技師」の育成が本格的に動き出しました。患者とのコミュニケーション能力が要求されてくると思われます。また時には他の職種との連係プレーが必要不可欠となることもあるでしょう。今後はハイレベルな知識・技術を持った検査技師を求められてくると思います。時代に乗り遅れることなく自己研磨に励んでください。

在職中は多くの諸先輩や同僚の皆様からのご指導、励ましを頂き誠にありがとうございました。技師生活40年間に終止符を打ちたいと思います。今後の国臨協と会員皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。



平成25年度国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）

日　時：平成26年1月18日（土）13:00～16:30　場　所：国立がん研究センター中央病院 6F 臨床検査部 カンファレンスルーム

出　席　者

国臨協関信支部役員

浅里、金子（司会）、後藤、小池、荘司、寺戸、長井、平原、川上（書記）、瀬戸（書記）、上條

各地区会代表者

藤澤（茨城地区会）　稲葉（栃木地区会）
長田（群馬地区会）　今村（千葉地区会）
樋口（神奈川地区会）　水島（新潟地区会）
中野（長野地区会）　日吾（埼玉地区会）
竹下（東京地区会）　羽深（東京・山梨地区会：仮称）
（敬称略）

1．開会の挨拶（金子副支部長）

2．支部長挨拶

各地区会には総会、研修会に出席する機会を頂き、活気溢れる地区会活動を拝見いたしました。また、今年は第68回国立病院総合医学会が横浜で開催されます。担当支部として鋭意準備を進めておりますが、絶大なるご支援をお願いいたします。本日は、限られた時間ですが忌憚のないご意見を頂き、今後の支部活動の運営に反映させたいと思います。

3．平成25年度支部役員・地区会代表者自己紹介

4．関信支部経過報告

1）事務局

本年度総会員数は前年度より５名増の553名、新規入会者は36名であった。また、次年度は新たに埼玉地区会、東京地区会、東京・山梨地区会（仮称）が設置され、関信支部は７地区会から10地区会となる。埼玉地区会は４施設40名、東京地区会は５施設103名、東京・山梨地区会（仮称）は５施設107名で構成される。※金子副支部長より地区会区割り、施設の割振りについて追加報告があった。

2）学術部

国臨協関信支部主催研修会を4回開催した。地区会共催研修会は長野地区会、群馬地区会の２地区会とそれぞれ開催した。第41回国臨協関信支部学会は一般演題数50、地区会コーナー優秀賞は、今年度も各地区会からの審査員による投票方式で選出した。今後、第５回研修会（超音波検査研修）、症例検討会（呈示施設：国立がん研究センター中央病院）を予定している。

3）広報部

国臨協関信支部ニュースを平成26年１月までに３回発行した。関信支部定期総会、関信支部学会、関信支部主催研修会等の支部活動関連記事や地区会だより、国立病院機構研修会等の情報を掲載した。また、ホームページも適時更新し、迅速な情報の提供に努めた。

5．各地区会経過報告

各地区会代表者より組織状況、会議（理事会・総会）、学術（研修会）、広報（会報誌発行等）、文化活動（レクレーション等）の報告があった。また、新たに設置される3地区会は平成26年度からの活動に向け準備を進めており、埼玉地区会から各施設担当理事の決定、東京地区会からは設立準備理事会開催等の報告があった。

6．各地区会提出議題（一部抜粋）・関信支部提出議題

1）茨城地区会

①ＲＡ制度の現状と今後について（支部提出議題で討議）

2）栃木地区会

①関信支部学会の活性化　※既存の賞以外に若い人（採用から3年未満）を対象とした賞、総合医学会の医師ポスターセッションのような若手技師のフォーラムを。

・関信支部学会は、若手技師の登竜門的な学会で歴代の学会賞受賞者も若手技師が多い。また、学会は日頃の研鑽の発表が目的であり、新たに賞を増やすことは考えていない。支部学会をステップに他学会、専門学会、論文発表等に繋げて頂きたい。

②ホームページの活用　※ＨＰの更新頻度が少なく、内容も薄い印象がある。例えば各施設が行っている業務改善、経営改善、ＲＡからの最新学術情報等を掲載しては。

・前年度と比較すると更新回数は増えており、今後も更新及び内容の充実に努めたい。また、ＨＰには各地区会のコーナーもあり、積極的に活用頂くと共に、施設からの投稿、活用もお願いする。

③地区会との交流と各施設単位での交流の活性化　※地区会共催研修会の継続と共に施設単位の共催の継続発展。

・地区会との共催研修会は継続するが、施設との共催研修会は計画していない。支部としては、近隣の地区会同士が研修会、レクレーションを共催する等、交流を通じ活動の拡大や更なる活性化に期待している。

④各地区会の定期総会を含めた予定の把握について　※支部ＨＰに支部行事予定が掲載されるようになったが、埼玉、東京地区会の設立、総会開催日の調整等から各地区会の半年～1年先の予定等を掲載してほしい。

・支部・地区会年間行事予定は継続し、可能な限り迅速にＨＰに掲載する。各地区会には情報を提供頂くと共に予定の確認、日程調整等に活用頂きたい。

⑤研修会内容について　※若い人が横の交流が持てるような研修会を企画してほしい。

・今年度は、人材育成、患者接遇、うつ、認定資格等の内容で研修会を開催した。支部としては若手技師が興味を持てる内容を検討しているが、地区会からも企画等を提案頂きたい。

3）群馬地区会

①東京・埼玉・山梨地区会の進捗状況について（各地区会経過報告で報告）

②ＲＡ再編の進捗状況について（支部提出議題で

討議）
③関信支部学会の座長複数制（セッションにより）及び示説発表について
・座長複数制は検討中である。ポスターセッションは場所、プログラム、以前に導入したが不評だった、等の理由から予定はしていない。新人のポスター発表の場としては、是非、総合医学会等を利用して頂きたい。
④検査相談室の進捗状況について
・国臨協本部ＨＰ、会報で確認願いたい。

４）千葉地区会
①関信支部ＨＰの充実（栃木地区会②で討議）
②ＲＡ制度について　※質疑応答等の情報公開、活動内容の周知（支部提出議題で討議）
③関信支部学会のポスター発表 ※分野により新人が経験する場として(群馬地区会③で討議)

５）神奈川地区会
①中堅技師の人材育成、主任研修会の再開催など
・人材育成は、本部、技師長協議会、専門職と連携して対応に努めているが、主任技師の育成は重要課題でもあり、次年度は主任技師を対象とした研修会を企画したい。
②研修会等のあり方について（栃木地区会⑤で討議）
③人材育成のビジョン等ついて（①で討議）
④今後のＲＡの活用について（支部提出議題で討議）
⑤ビアパーティー会場について　※会場が狭く、座り席では交流し難い立食形式で。
・参加費や合同交流会が立食形式のため、ビアパーティーは着席としている。参加者は150名以上、安くて広い会場の確保が厳しい現状を理解頂きたい。また、立食、着席でも積極的に交流する気持ち、行動が大切で、是非、ご理解とご指導をお願いしたい。

６）新潟地区会
①関信支部・地区会共催研修会の開催について（栃木地区会③で討議）
②学会地区会ポスターを関信支部ニュースに掲載してほしい。　※ポスターを学会開催中に見る時間がなく、参加できない会員のためにも支部ニュースに掲載してほしい。
・次年度よりＨＰにＰＤＦ等で編集したものを掲載する予定である。各地区会はファイル形式で支部担当者に送ってほしい。
③関信支部主催の研修会や勉強会の資料配付について　※研修会等への参加希望はあるが、地理的に難しい現状もあり、資料等の配布をお願いしたい。
・参加者から会場費を徴収しており、差別化から今後も施設への資料配布は行わない。しかし、地理的問題も考慮し、各地区会長宛に資料を一部送付するので各地区会で対応してほしい。

７）長野地区会（特になし）

８）埼玉地区会（特になし）

９）東京地区会
①若手技師の交流の場を作り、技師会が楽しい団体であることを知らしめる。
・地区会で企画、開催して頂き、具体的な手法や意見等を教えて頂きたい。
②地区会の再編成を試行、関信を４地区会位に統合して管理を軽減する。
・次年度は、10地区会となるが再編成は考えていない。
③支部学会を持ち回りの地区会監修とし、地区会の特色を出す。ただし、主催、管理、運営は関信支部が行うこと。
・支部学会は従来どおりに執り行う。
④ビアパーティーに変わるイベントを一緒に考えませんか。
・以前、野外にてバーベキューを開催したことがあるが、参加者150名のビアパーティーに変わるイベントの企画・運営は現実には厳しい。しかし、地区会から提案等があれば検討したい。
⑤地区会費の平均化（どこの地区会も会費が同じ）が出来るように支部として動けませんか。
・地区会毎に会員数、活動内容等が異なることから会費設定は地区会に任せており、今後も支部が関与する予定はない。

10）東京・山梨地区会（特になし）

11）関信支部提出議題
①国臨協関信支部地区会助成金について
・次年度より10地区会となるため、地区会助成金を４万円から３万円に引き下げることを提案し、承認された。
②ルーチンアドバイザー（ＲＡ）の見直しについて
・「国臨協関信支部ルーチンアドバイザー委員会規程（案）」を提出、一部修正後承認された。
・名称、事務局、目的、事業、委員、選出、任期、運用等について規定した。
・運用は、問い合わせ方法、委員長・支部への報告、共有すべき情報のＨＰ・支部ニュースへの掲載等について規定した。
③中途採用者の人事異動の報告について
・中途採用者の人事異動は、専門職から提供された情報のみ掲載することを再度確認した。
④第68回国立病院総合医学会について
・平成26年11月14日、15日に第68回国立病院総合医学会が開催される。会場はパシフィコ横浜、学会長施設は横浜医療センター、演題発表、学会参加等で会員にはご支援をお願いする。
⑤国臨協関信支部学会学会賞（学術奨励賞、学会特別賞）選考委員の担当地区について
・第42回関信支部学会学会賞選考委員の担当地区は神奈川地区会、新潟地区会とする。
・次年度の３地区会設置に伴い、第43回以降の順番は、長野、栃木、千葉、群馬、茨城、神奈川、新潟、埼玉、東京、東京・山梨（仮称）地区会の順とする。

７．上條専門職の挨拶

８．閉会の挨拶（後藤事務局長）

以上

「平成25年度医療職（二）・福祉職スキルアップ研修」に参加して

ＮＨＯ千葉東病院
仲　間　盛　之

12月4日と５日の両日、機構本部において「平成25年度医療職（二）・福祉職スキルアップ研修」が開催され参加させていただきました。

初日はブロック事務所医療課の塚野　悟先生による「国立病院機構の動向」についての講演と各職種の職場長による「職場管理者として必要なこと」と題する講演を受講しました。各職場長の方々からは常日頃、リーダーとしての考えや管理者としての責務について伺う事が出来ました。

午後は「今後のチーム医療について」と題して７班に分かれグループ討議を行いました。各グループからは職場の問題点や地域医療施設との連携などが報告されました。その中で「各職場に対して関心を持つことが、今後のチーム医療の質を上げる為には重要との意見が多く上げられていました。

二日目は九州ウィルソンラーニングの田中先生によるコーチングコミュニケーション研修が1日を通して行われました。講義はオリエンテーションに始まり、コミュニケーションスキルとコーチングで講義の合間にロールプレイ（役割演技）を交えたグループワーキングを行いながらのコミュニケーションの取り方について勉強しました。

日常、上司と部下との間で、お互いの思いや考えが上手く伝達されない事や人間関係等の問題が数多く起こります。このような問題を今回のコーチングコミュニケーション研修は、幾らか解決していく道筋を導き出してくれた様に思います。私はこの二日間の研修で、職場の管理者やリーダーとしての自覚を持つことの大変さや心構えを教わりました。そして自分の立場に応じて周りのスタッフに対し、どのような接し方が必要かを学び、大変有意義な研修会に参加することが出来たと思います。

今後はコーチングコミュニケーション研修で学んだことを、実際に職場で活かせるようにしたいと思います。

最後に講師やブロック事務所の皆様に感謝し、同じく参加された医療職（二）・福祉職の皆様にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成25年度第５回国臨協関信支部主催研修会
超音波研修会（基礎分野）に参加して

ＮＨＯ栃木医療センター
内　海　雅　文

平成26年１月25日（土）国立国際医療研究センターにおいて第５回国臨協関信支部主催の「超音波研修会」が開催されました。研修会は超音波検査の基礎、循環器、腹部の３分野について３名の先生による講演でした。私は国立国際医療研究センター病院 前島基志先生の基礎分野の講演を興味深く拝聴させていただきました。

先生の講演から、超音波の特性、装置について、ドプラ、アーチファクトなど多くの基礎知識を学ぶことができました。超音波の特性については、音速や波長、周波数など主に覚えておくべき公式のお話しで、装置については振動子、プローブ、ゲイン、ダイナミックレンジ、STCなどについて説明があり、ドプラ、アーチファクトは図や映像・写真を使った詳細な内容でした。今回の講演は認定試験を照準に合わせたものであり、物理学の苦手な私にとって、試験に出題される数式や内容についてイラストや例えを使ってお話しいただいたことは、とても新鮮で理解しやすく、今後、超音波検査士認定試験を受験し、合格するためにも有意義な講演内容だったと実感しています。

現在私は、腹部分野を中心に学んでおり、週一回、ＮＨＯ宇都宮病院に腹部超音波検査の研修に行き、峰岸正明技師長に御指導いただいています。まだまだ、未熟であり、一日一日が勉強になります。できる限り多くのことを学び、当院の超音波検査にフィードバックしていきたいと思います。

最後になりましたが、ご多忙の中、当研修会を企画し開催して下さいました国臨協関信支部役員の皆様、並びに御講演いただきました先生方に深く感謝するとともに、厚く御礼を申し上げます。

超音波研修会（循環器分野）に参加して

ＮＨＯ千葉医療センター
柿　沢　愛　子

平成26年１月25日（土）、国立国際医療研究センター病院において、国臨協関信支部主催による「超音波研修会～超音波検査士を目指そう～」が開催されました。第1部では、「基礎分野」について、また第2部では、「腹部分野」と「循環器分野」の各領域に分かれてご講義いただきました。現在、私は心臓超音波検査を学んでいるので、今回は「循環器分野」領域に参加し、国立国際医療研究センター病院の植松明和先生によるご講義を拝聴させていただきました。講義は問題形式で進められ、実際のエコー動画を交えながら疾患ごとの鑑別ポイントについて分かりやすく解説していただいたおかげで、まだ勉強を始めて日の浅い私にとっても、非常に理解しやすい内容でした。症例の中には、私自身未経験である仮性心室瘤や大動脈解離などの症例が多数あり、講義についていけるのか不安でしたが、実際のエコー動画と資料をもとにして、発生機序から詳細に教えていただき、貴重な知識を得ることができたと思います。症例の少ない先天性疾患などは、参考書のみでは理解することが難しかったのですが、血行動態から考え方や評価法について知ることができ、大変参考になりました。今回の超音波研修会を受講したことで、様々な症例に触れることができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。私は、心臓超音波を始めてまだ数ヶ月であり、超音波検査士認定試験を受験するまでの道のりはまだ遠いのですが、その目標に向かって日々励んでいきたいと思います。今回の研修会への出席を機に、今後も様々な研修会に積極的に参加し、日常業務でのレベルアップと自己のスキルアップにつなげていきたいと思います。最後になりましたが、お忙しい中、今回の研修会を企画・運営して下さいました国臨協関信支部役員の皆様ならびに講師の先生方に感謝と御礼を申し上げます。

超音波研修会（腹部分野）に参加して

ＮＨＯ東京病院
花　澤　沙也佳

平成26年１月25日（土）国立国際医療研究センターにおいて、第5回国臨協関信支部主催研修会「超音波研修会」が開催され、参加いたしました。

まず、基礎分野を国立国際医療研究センター病院の前島先生にご講演頂きました。「超音波の特性」に始まり「装置の基礎」、「受信信号処理」、「ドプラ」、「アーチファクト」と続き最後に「安全な検査のために」としてご講演頂きました。「超音波の特性」では、Snellの法則など苦手意識のあった難しい公式も丁寧に大変解り易く解説して頂きました。

また、「ドプラ」ではサンプルボリューム、角度補正など、自身の手技や設定に問題はなかったかを再確認する機会となりました。知識を整理すると共に、あらためて基礎の重要性を認識しました。

臨床分野は循環器領域または腹部領域を選択しての受講でした。私は腹部超音波検査の経験が浅く、この機会に知識、技術を習得したいと考えていたため腹部領域を受講しました。講師は国立がん研究センター中央病院の宮越先生です。美しく簡潔にまとめられたスライドを基に、肝臓・胆道系・膵臓・脾臓・消化管の各疾患の超音波所見を詳しく解説して頂きました。私は疾患と超音波所見を併せて覚えることが苦手でしたが、各疾患の所見ポイントを的確にご説明頂き大変参考になりました。

また、比較的遭遇する症例から膵臓腫瘤など実際に経験しないと判断が難しい貴重な症例までを多数の超音波画像と共にお話し頂き興味深く学ぶことができました。

この研修会では、経験、知識、技術が足りないことをあらためて痛感しましたが、研修会で学んだことを活用し、日常検査で十分に発揮できるよう、日々精進していきたいと思います。

最後になりましたが、講師の先生方、研修会を企画開催して下さいました関信支部役員の皆様に深く感謝申し上げます。

日本臨床衛生検査技師会精度保証施設認定の取得によせて

ＮＨＯ横浜医療センター
國　仲　伸　男

当院はH25年度「日臨技精度保証施設認証制度」の申請を行い、この度めでたく承認され、H26年度に認証取得施設として登録されます。今回は、この日臨技精度保証施設認証取得の経緯について報告したいと思います。

日臨技精度保証施設認証制度は、日臨技主催の外部精度管理調査およびデータ標準化事業に参加し、信頼性が十分保証されていると評価できる施設に対し、「精度保証認証施設」として認定する制度として平成22年度に発足されました。この事業は、精度保証に関する業務が診療報酬まで反映されることを目的としており、精度管理参加施設数の約1/3の1,000 施設取得が目標となっています。この実績が認められれば厚労省への保険点数の働きかけを後押できると考えられています。

しかし、H25年取得施設は全国で485施設、うち神奈川県は９施設。一方、国臨協施設の取得は11 施設（近畿ブロック３施設、中国・四国ブロック３施設、九州ブロック５施設）と少なく、さらに関信ブロックにおいては、１施設も取得施設がないのが実状です。そのような状況を踏まえ、当院では日頃の精度管理業務が内外に対して正しく評価される施設を目指し急ピッチで申請作業を進めてまいりました。

認証基準は、１)日臨技主催の外部精度管理調査成績：直近2 年間参加、90％以上の評価。２)臨床検査データ標準化の実践：都道府県臨床検査技師会の外部精度管理に直近２年間参加、80％以上の評価、自施設内での標準化の実践、内部精度管理・外部精度管理不適合改善記録。３)人的資源：生涯教育の修了、継続的に精度管理関連研修会参加。です。ここでネックになるのが項目３）の"人的資源：生涯教育の修了"が挙げられます。私はまだ生涯教育を修了していなかったのですが、とても熱心な主任技師がいたことでクリアすることができました。しかし、私もH26年度には支部研修会などでコツコツ貯めた点数で修了する予定ですので、次回更新時には微力ながら貢献できるものと思います。

国臨協、特に関信支部はその規模の大きさから中心的な役割を担うものと思われ、積極的な取得が望まれると考えています。今回の報告が会員の皆様のお役に立てば幸いです。

（引用文献）

1. 西浦明彦:「日臨技　精度保証施設認証制度」について.国臨協会報78. 66-69, 2013
2. 日臨技精度保証http://www.jamt.or.jp/public/activity/seido_kanri/seidokanri_jigyou.html

「第2回千葉地区会研修会」に参加して

国立がん研究センター東病院
山　口　卓　哉

平成25年11月23日（祝）、NHO千葉医療センターにおいて「第2回千葉地区会研修会」が開催されました。

第１部は千葉県赤十字血液センター事務部学術課　前橋美智子先生より「安全な輸血を行うために」と題し、講演をして頂きました。輸血用血液製剤が出来るまでの工程の中には、７項目の血清学的感染症検査を行い、それらの結果が全て陰性となった20検体を１検体にまとめ、核酸増幅検査（HBV、HCV、HIV-1/2）を行うことでウインドウ・ピリオドの短縮をしていることを知りました。さらに、１検体にまとめる検体数が1999年の500検体であったのを、現在の検体数まで縮小することで、輸血後肝炎の発症率が低下していると分かりました。また、輸血用血液製剤の取り扱い注意点として、赤血球製剤・血漿製剤・血小板製剤の保管方法や製剤の外観及び色調の観察ポイントなどを教えて頂きました。

第２部ではNHO千葉医療センター　臨床検査科　長島恵子先生より「輸血検査のポイント」と題し、日当直時に遭遇しそうな内容を一問一答形式で講演して頂きました。

今回の研修会に出席し、輸血検査を行う際には注意をしていかなければならない点を再認識し、今後の業務に取り組む際に心がけていきたいと思いました。

最後になりましたが、講師の先生方はじめ研修会を開催してくださった千葉地区会役員の皆様に、厚く御礼申し上げます。

「平成25年度国臨協関信支部群馬地区会定期総会」に参加して

ＮＨＯ沼田病院
上　野　将　臣

平成25年12月7日（土）、NHO高崎総合医療センターにおいて、平成25年度国臨協関信支部群馬地区会定期総会が開催されました。年末の慌ただしい時期にもかかわらず、当日は多数の会員様に参加していただきました。また、来賓として関東信越ブロックの上條臨床検査専門職、国臨協関信支部浅里支部長にご臨席を賜りました。

初めに上條臨床検査専門職より専門職からの連絡事項についてご講演いただき、日本医師会精度管理調査報告、臨床検査部門の課題、主任技師候補者選考試験や各認定資格試験修得を含めた人材育成についてなどをご教授いただきました。検査の幅広い知識を持ち、キャリアパスを設定し、各種認定資格習得に向けて更なるスキルアップが必要だと感じました。

定期総会では、金子事務局長挨拶、野田群馬地区会長挨拶の後に議事となります。平成25年度経過報告、会計報告・会計監査報告、平成26年度事業方針、予算(案)、会則改正(案)が承認され、次年度役員を選出し無事に総会が終了しました。

最後になりましたが、ご講演いただきました上條専門職、お忙しい中で出席して下さった浅里支部長、関信支部役員の方々、ご協力いただいた会員の皆様に心より感謝申し上げます。

平成26年度国臨協関信支部群馬地区会役員

会　　長　長田　裕次（国立療養所栗生楽泉園）
事務局長　中村　　茂（ＮＨＯ沼田病院）
理　　事　遠藤　　隆（ＮＨＯ高崎総合医療センター）
理　　事　河本　峰奈（ＮＨＯ西群馬病院）
理　　事　隠岐　博文（ＮＨＯ沼田病院）
理　　事　金子　　勇（国立療養所栗生楽泉園）
会　　計　栢間　貴宏（ＮＨＯ高崎総合医療センター）
会計監査　野田　　岳（ＮＨＯ高崎総合医療センター）

「第4回国臨協関信支部主催研修会(共催：国臨協関信支部群馬地区会)」に参加して

ＮＨＯ西群馬病院
松　本　善　信

巧み（匠）とは
しごと、しわぎ。また、「芸術」「技術」の雅語的表現。
以上　広辞苑より

平成25年12月7日（土）国立病院機構高崎総合医療センターにて、第４回国臨協関信支部主催研修会『人材育成！今、認定資格を考える』が開催されました。

高崎総合医療センター循環器科医師福田先生より『心エコーによる拡張機能の評価と認定技師に期待すること』について講義がありました。拡張能について臨床的意義から、心エコーによる評価、左房容積と拡張能の関係など、心臓超音波検査に従事している者が知っておくべき基礎知識を丁寧に解説してくださいました。

次に、西群馬病院河本技師、高崎総合医療センター土橋技師、竹内技師、藤本主任技師が『認定技師を取得して』という題目で各々取得した認定資格の分野での講義がありました。取得しようと思ったきっかけや経緯、合格までの道のり、認定資格取得後の決意を聴き、いろいろと考えさせられましたが、認定資格とは、スキルアップ、日々の勉強、後進の指導これに尽きるのではないでしょうか。

締めは、『認定資格を持つことの光と影』について佐藤副技師長が壮絶な半生？を振り返りながら講義してくれました。

聴講された上條専門職も話されていましたが、私達の世界は匠の世界です。医療の世界の技術屋集団です。技術は、後世に残していかなければ、そこで廃れてしまいます。認定資格取得者は、後進育成をし、又、認定資格を取得していない人、認定資格の無い領域を検査している人も検査技師という匠の世界で、その技術、知識を後世に伝える義務が、人材育成に繋がると感じました。

最後にお忙しい中、研修会を企画開催していただきました関信支部役員及び群馬地区会の皆様に深く御礼申し上げます。

「国臨協関信支部新潟地区会定期総会・研修会」に参加して

ＮＨＯ西新潟中央病院
霜　田　由美子

平成25年11月23日（土）さいがた医療センターにおいて、第33回国臨協関信支部新潟地区会定期総会が開催されました。当日はこの時期の新潟では珍しく天候にも恵まれました。21名が参加し、来賓として、上條臨床検査専門職、野田副支部長、平原理事にご臨席を賜りました。

研修会では、新潟県赤十字血液センター学術課の瀬下敏先生に「今後の輸血検査の展望」と題してご講演いただきました。血液センターの現状からiPS細胞まで幅広い内容でした。iPS細胞は、まだまだ先の話のように思っていましたが、ヒトiPS細胞からつくられた血小板の大量作成に成功したということをお聞きし、少しずつ確実に私たちの身近になってきていると感じました。

上條臨床検査専門職からは「臨床検査部門の現状と課題」として、NHOの現状や今後の展開、各種認定資格所得状況、新採用者の登録人数、若手技師の育成、主任登用試験などのお話をしていただきました。私はまだまだ新人ですが、将来はしっかりとした指導ができるような検査技師にならなければと、身が引き締まる思いがしました。

定期総会では、野田副支部長より、関信支部の活動報告をしていただきました。次に議長に選出された西新潟中央病院の渡辺副技師長のもと、平成24年度経過報告、平成25年度議案審議がすべて承認されました。

その後、場所を懇親会場に移し、和やかな雰囲気の中、楽しい時間が過ぎました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演して下さいました瀬下先生、ならびに遠路はるばるご臨席を賜りました上條臨床検査専門職、野田副支部長、平原理事に心より感謝申し上げます。

平成25年度国臨協関信支部新潟地区会役員

会　　長　水島　美津子（ＮＨＯ西新潟中央病院）
副 会 長　中村　宏　紀（ＮＨＯさいがた医療センター）
理　　事　菅井　めぐ美（ＮＨＯ新潟病院）
理　　事　内藤　真由美（ＮＨＯ西新潟中央病院）
会計監査　岩間　裕　子（ＮＨＯさいがた医療センター）

国臨協関信支部今後の予定

月	日	曜日	事務局	学術	広報	地区会
４月					関信支部ニュース第１９７号 議案書　発送	
	19日	土曜日	第42回国臨協関信支部定期総会 合同交流会	第１回国臨協関信支部主催 研修会		
５月						
６月	21日	土曜日				茨城地区会総会
	28日	土曜日				長野地区会総会
７月	５日	土曜日				千葉地区会総会
	12日	土曜日	ビアパーティー	第2回国臨協関信支部主催 研修会		

※予定は変更となる場合がありますのでご了承ください。

お　祝　い

この度、前島　基志主任（国立国際医療研究センター病院）が、第38回日本超音波検査学会学術集会におきまして、平成２４年度学術奨励賞を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

ルーチンアドバイザー紹介

この度、ルーチンアドバイザー（以下ＲＡ）制度およびＲＡ見直しから、平成26年２月１日より国臨協関信支部ＲＡ委員会規程を施行しました。規程については関信支部ホームページをご確認ください。以下にＲＡをご紹介します。

部門	氏名	施設名
生化学	太田　修司	ＮＨＯ千葉東病院
血清	田中　暁人	ＮＨＯ高崎総合医療センター
血液	手塚　俊介	国立国際医療研究センター病院
一般	長田　健児	国立国際医療研究センター病院
委員長・微生物	渡辺　靖	ＮＨＯ西新潟中央病院
微生物	太田和　秀一	ＮＨＯ東京病院
生理・全般	山口　秀樹	ＮＨＯ相模原病院
生理・超音波（循環器）	中谷　穏	ＮＨＯ水戸医療センター
生理・超音波（消化器）	宮越　基	国立がん研究センター中央病院
病理	山田　晶	ＮＨＯ千葉医療センター
病理	澁木　康雄	国立がん研究センター中央病院
輸血	真鍋　義弘	国立国際医療研究センター病院
輸血	吉田　茂久	国立がん研究センター中央病院
システム	宮澤　寿幸	ＮＨＯまつもと医療センター中信松本病院
システム	新谷　和之	ＮＨＯ横浜医療センター

平成26年４月１日現在

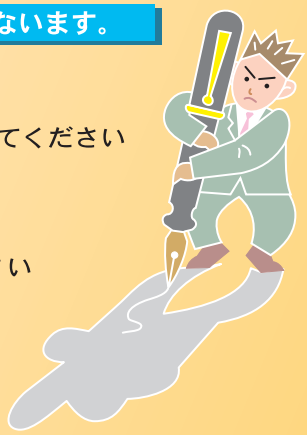
第42回国臨協関信支部学会
演題募集のお知らせ

演題名のみでの申し込みは出来ません。抄録提出により演題登録をおこないます。

1．抄録原稿の作成・送付について
E-mailにより抄録原稿を送付してください
抄録原稿の作成方法については、国臨協関信支部ホームページを参照してください
http://kanshinshibu.org/

2．抄録原稿締め切り期日
平成26年5月23日（金）必着
※演題の採否については、学会長に一任してください

3．抄録原稿送付先
国立病院機構　横浜医療センター　臨床検査科　長井俊道
E-mail：nagai-toshimichi@yokohamamc.jp
ＴＥＬ：045-851-3902　ＰＨＳ：8344



編集後記

やっと、春になりました。そろそろ、本格的に国立病院総合医学会の準備が始まります。今年は横浜開催となっているので、関信支部も大忙しです。横浜と言えば、老舗ホテルのホテルニューグランドがあります。ここは、ナポリタンとかドリア、プリンアラモードの発祥の店があり、またサザンの歌にあるシーガーディアン（正式名はシーガーディアンⅡ）のバーがあります。ちなみにバンブーとミリオンダラーという名のカクテルは、明治時代サンフランシスコから横浜グランドホテルに着任していた支配人が考案したカクテルだそうです。

広報部　小池容子

覚えよう 身につけよう 検査技術！ 血液培養陽性時の「起因菌」「コンタミネーション」の判定について

国立がん研究センター中央病院　病理･臨床検査科　荘司　路

はじめに

感染症診断において血液培養検査は重要であり、ICTおよび微生物検査室が中心となり血液培養採取の啓発が進められ着実に定着しつつある。その一方で検査室では、血液培養陽性件数も増加し、その分離菌の解釈に迷うケースも日常しばしば経験される。

血液からの検出菌は、原則として『起因菌』と判断される。そのため、培養ボトルに血液を入れるまでの過程で外から菌が混入すると、誤った臨床判断を招き、患者に多大な負担を与えかねない。血液培養陽性時には検査室では、分離菌が真の起因菌かコンタミネーションかを見極める必要がある。以下に血液分離菌におけるコンタミネーションの判断基準について述べる。

①分離菌種

一般に、*Coagulase-negative Staphylococci* (CNS)、*Corynebacterium spp.*、*Propionibacterium spp.*、などの皮膚の常在菌や*Bacillus spp.*など環境由来菌は血液培養を汚染させる代表的な菌種である。これらの菌種の中でも*CNS*は、カテーテル関連血流感染症の代表的な起因菌でもあるが、真の血流感染症を示すのはわずか20％程度である。一方、*Escherichia coli*などの腸内細菌科や*Pseudomonas aeruginosa*などグラム陰性桿菌の多くは血流感染の起因菌として認識されているが、時に採血部位からの汚染菌として検出されることもある。いずれも汚染か否かの判断は、菌種のみで行うことはできない。

②採血部位と消毒

血液培養検査において検体採取は、大変重要な工程であり、十分な訓練を受けたスタッフが、厳密な無菌的操作により実施する必要がある。肘の静脈採血が一般的であり、70％イソプロパノールで消毒後に空気乾燥して、次の処理として1～2％ヨード、またはポピドンヨードを用いる方法が推奨されている。これらの消毒薬が最大限に効果を引き出すためには、1.5～2分の時間を要するが、血液培養採取者の多くはしばしば急いでいて、無菌的な状態を得る事無く血液採取をする場合が多い。一方、鼠径部からの採取は、腸球菌や腸内細菌が混入する危険性もあり、培養陽性時の起因菌・コンタミネーションの判断に影響を与える。

また使用する血液培養ボトルについても、刺入部にキャップがしてあっても無菌性を保つためのものでは無いため、使用時にボトルのフリップキャップを外し、ボトルの刺入部分を忘れずにアルコール綿で消毒する必要がある。

③採取ボトルのセット数

血液培養の複数セット採取は、重篤な感染症の起因菌検出の感度をあげるだけでなく、培養陽性時に皮膚常在菌などのコンタミネーションが考えられる菌種が分離された場合の解釈にも必須である。真の感染症では、別々の部位から採取した複数の血液培養セットが陽性となる。一方、1セットまたは2本のうち1本のみから皮膚常在菌や環境由来菌が検出された場合、コンタミネーションと判断されることが多い。

しかし、*Candida spp.*、*S. aureus*、*S. pneumoniae*、*P. aeruginosa*などは、1セットのみの陽性であっても血流感染の真の起因菌として早急な治療開始が必要である。また、カテーテル感染例などでも1セットのみしか血液培養が陽性にならない場合もあるため、真の起因菌かの判断には、カテーテル挿入部の局所所見、発熱などの全身所見、炎症反応も考慮する必要がある。

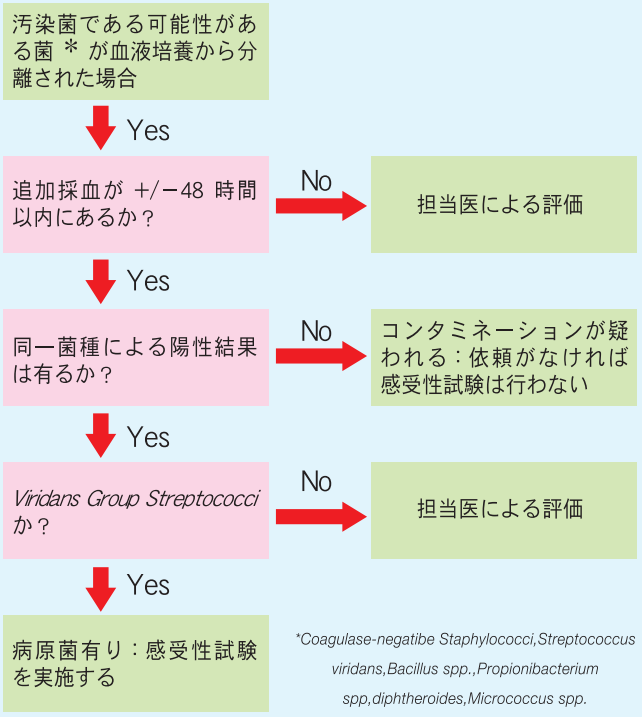
④培養陽性までの所要時間

真の菌血症が疑われる患者の血液中の細菌量は、血液培養採取時に混入する菌量に比べるとはるかに多く存在し、95～97％が培養開始から3日で陽性となることが多い。コンタミネーションか否かを判断するうえで、培養開始から陽性になるまでの時間についても考慮することが重要である。

まとめ

CNS、*Corynebacterium spp.*、*Propionibacterium spp.*、などの皮膚常在菌や*Bacillus spp.*など環境由来菌は、一般的にコンタミネーションと判断されることが多いが、化学療法中の患者や免疫不全の患者においては重篤な感染症を引き起こす起因菌にもなりうる。患者の症状や全身状態、身体所見、治療内容・経過、他部位（カテーテル先端や膿瘍など）培養検査やその他検査結果等も考慮しコンタミネーションか否かを総合的に判断する必要がある。このため血液培養検査結果のみでの判断は危険である。

≪血液培養コンタミネーションを確定するためには≫



Adapted from Richter et al. Minimizing the workup of blood culture contaminants:implementationand evaluation of a laboratory-based algorithm. J ClinMicrobiol. 2002;40:2437-2444 引用

参考文献
1）松本哲哉，満田年宏　訳：CUMITECH　血液培養検査ガイドライン、医師薬出版，東京，2007
2）満田年宏　血液培養　血流感染症診断のための重要な検査　シスメックス・ビオメリュー株式会社
3）Pien BC, Sundaram P, Raoof N, Costa SF, Mirrett S, Woods CW, Reller LB, Weinstein MP.Duke University Medical Center, Durham, NC, USA. The clinical and prognostic importance of positive blood cultures in adults. Am J Med. 2010 Sep;123(9):819-28. doi: 10.1016/j.amjmed.2010.03.021.
4）Rahkonen M, Luttinen S, Koskela M, Hautala T. True bacteremias caused by coagulase negative Staphylococcus are difficult to distinguish from blood culture contaminants. Eur J ClinMicrobiol Infect Dis. 2012 Oct;31(10):2639-44

次回へ続く　『腸内細菌の同定法について』再度確認してみよう。